

校長室だより～和光高校今昔 第6号 H26.6.14

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 達

## 和光市の由来

和光高校創立に先立つ2年前の昭和45年、市制施行に伴い「和光市」が誕生しました。名前にまつわるその当時の様々な経緯を紹介します。

新倉村と白子村が合併し、和光市の前身である「大和町」が生まれたのは、昭和18年4月のことです。太平洋戦争真っ只中の時期で米軍機が本土を空襲したころと一致します。明治期の乗合馬車（板橋～川越間）が発展した東上鉄道（東武東上線の前身）は既に大正3年に開通（池袋～川越間）されており、昭和9年には新倉駅（現在の和光市駅）が開設されています。終戦時の人口はおよそ1万人、国立埼玉病院も陸軍病院から改称され新たに発足しました。西大和団地や諏訪原団地などが建設され市域の人口は膨れ上がり、昭和40年には3万人を超えるまでになりました。全国一の新座などと共に人口急増都市のひとつに数えられ、地方自治法改正に伴う「人口3万市制法」によって町から市になったのです。

実はこのとき新市の名前について大きな問題が生じたのです。すでに神奈川県に大和市があったため旧町名である「大和」を使うことができないことが分かったのです。同じような例として、「松山（愛媛県）」とかぶった「東松山（埼玉）」、やはり大和が使えなかった「東大和（東京）」などがあります。そこで新市の名称を公募することとなりました。以下が「和光」以外に上位にあがった名前の候補です。

「新倉」「白子」

「美和」「新和」「新大和」「昭和」「東和」

「埼玉」「埼玉南」「東埼玉」「南埼玉」

「本田」「栄」

ここでは4つに分類しましたが、何となく傾向が見えてくると思います。

最終的には「和」という文字を用いており、平和・栄光・前進をイメージするというので、この町が明るく豊かで住みよい街として発展することを願い「和光」が採用されたのです。こうして昭和45年10月31日、県下29番目の市として和光市が誕生しました。同時に東上線「大和町（やまとまち）」駅は「和光市」駅に改称されたのですが、切符などの手配に手間取りやや遅れた12月20日が新駅の開業となったようです。

和光高校の名前ももしかしたら違う名前になっていたかもしれません。個人的には『和光同塵』の意味が重なりとても気に入っています。

